

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性探知日）】

R3.12/6(月) ~ R3.12/12(日) 令和3年第49週

<感染の状況（直近1週間）>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
陽性者数	① 合計 ^{※2}	7人	8人	-	-
	② 対人口10万人	0.5人	0.5人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	0.88	0.40	-	-
④ 感染経路不明割合（%）		71%	75%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率 ^{※3} （%） = 陽性者数 ÷ 検査件数		0.2%	0.2%	5%以上	10%以上

※1 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

※2 市内医療機関から川崎市保健所に届出のあった人数を掲載しています。

※3 ⑤陽性率について

自費検査を行う市外の検査機関等で検体が採取された方についても市内医療機関から陽性者の届出がされる事例が多数確認されており、①陽性者合計から市外の検査機関等で検体採取が確認された陽性者数を除いて算出しています。

検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム(G-MIS)により報告があった検査件数(速報値)の合算を用いています。

<医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>		12/12現在	12/5現在	-	-
⑥ 入院患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	2人	5人	-	-
	確保病床数	477床	477床	-	-
	病床使用率	0.4%	1.0%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	0人	0人	-	-
	確保病床数	69床	69床	-	-
	病床使用率	0.0%	0.0%	20%以上	50%以上
療養者数 (入院、自宅及び宿泊療養) (陽性確定例)	⑧ 合計	8人	13人	-	-
	⑨ 対人口10万人	0.5人	0.8人	20人以上	30人以上

<参考数値>

項目	現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>	12/12現在	12/5現在	-	-
⑩ 入院率 ^{※4} (%) = 入院中の患者÷療養者数 (陽性確定例)	25.0%	38.5%	40%以下	25%以下

※4 入院率は、神奈川モデルに基づき、入院適応を総合的に決定しており、「入院率」の指標では病床ひっ迫状況を計ることができないため、参考数値

<変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果^{※5} (懸念される変異株 (Variant of Concern : VOC^{※6}) の検出状況)

※5 川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載

※6 国立感染症研究所が分類した「主に感染性や重篤度が増す・ワクチン効果を弱めるなど性質が変化した可能性のある株」

懸念される変異株 : VOC	直近1週間 12/6 ~ 12/12	前週 11/29 ~ 12/5	累計 3/11 ~ 12/12
α株 (アルファ)	0件	0件	203件
β株 (ベータ)	0件	0件	0件
γ株 (ガンマ)	0件	0件	0件
δ株 (デルタ)	30件	150件	511件
ο株 (オミクロン)	-	-	-

ο株が検出された場合は、神奈川県及び厚生労働省と連携して対応し、発表は神奈川県が行います。

<評価>

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、いわゆる第5波について、感染の状況は第33週（8月16日～22日）をピークとし、医療提供体制等の負荷については第34週（8月23日～29日）をピークとして、第43週（10月25日～31日）まで減少が続き、第44週、第45週は若干数値が増加した項目がありましたが、第46週～第49週（今週）は再び減少ないし大きい変動がない状態が続き、全体として落ち着いている状況が続いています。新規陽性者数は第48週8人、第49週（今週）は7人と1桁が続き、第48週・第49週と今年の最低値となりました。入院患者数は第47週3人、第48週5人、第49週（今週）は2人と減少し、重症患者の入院は3週連続してゼロとなっています。

ステージ分類は第30週（7月26日～8月1日）から第36週（9月6日～9月12日）まで7週間連続して全てがステージⅣとなっていました。順次ステージ解消へとすすみ、第41週～42週と2週連続してステージⅣ、Ⅲ解消となりました。第43週は、感染経路不明割合がステージⅣとなりましたが、第44週から再び6項目全てがステージⅣ、Ⅲ解消となり、第44～46週とステージⅣ、Ⅲのない状況が3週連続しました。第47週～第49週（今週）は感染経路不明者の割合が65%、75%、71%と高値となっており、3週連続してステージⅣ（50%以上）となっています。

<感染の状況：直近1週間>

- ① 新規陽性者数は、第33週（8月16日～22日）4308人をピークに減少が進み、第40週に88人と2桁、第48週は8人と1桁となり、第49週（今週）は7人で、第43週の18人を下回る今年最も低い数値が続いています。
- ② 対人口10万人あたりの累積新規陽性者数も第33週（8月16日～22日）279.7人をピークに減少が進み、第39週に9.0人と1桁台となり、第48週、第49週（今週）は0.5人で、第43週の1.2人を下回る今年最も低い数値が続いています。ステージ分類は第39～49週（今週）と11週連続してステージⅢ解消となっています。
- ③ 前週との増加比は、第30週（7月26日～8月1日）2.32をピークに減少が進み、第48週0.40、第49週（今週）は0.88となっています。
- ④ 感染経路不明者の割合は、第33週（8月16日～22日）の81%をピークに減少に転じ、第41週に47%となり、23週連続でステージⅢ・Ⅳ相当（50%以上）であったステージ分類は、24週ぶりにステージⅢ解消となりました。第43週は89%と上昇してステージⅣ、第44週は39%と減少し再びステージⅢ解消となりましたが、第47週65%、第48週75%、第49週（今週）は71%と増加し、3週連続してステージⅣ（50%以上）となっています。③と同様、新規陽性者数が非常に少なくなった中での調査のため、今後も変動しやすい数値であると考えています。
- ⑤ 検査陽性率は、第32週に54.9%と急上昇しました。この検査陽性率の急上昇については、感染の状況の表の※3で説明を加えております。本項目につきましては、算定方法が34週から異なったため連続性が失われますが、新算出方法では第32週の42.9%をピークに減少に向かい、第42週以降は1%前後となり、第48週、第49週（今週）は0.2%となっています。ステージ分類では第38週まではステージⅣ（10%以上）であり、旧算定方法を含み12週連続してステージⅣ相当となっていました。その後は第39～第49週（今週）と11週連続してステージⅢ（5%以上）解消となっています。

<医療提供体制等の負荷：報告日12.12現在>

- ⑥ 入院中の患者数は、第34週（8月23日～29日）286人をピークに減少が進み、第39週に2桁台64人となり、第47週3人、第48週5人、第49週（今週）2人と、3週連続して1桁台となっています。

確保病床数は第24週の241床から徐々に増床が続き、第44週以降第49週（今週）まで、計477床となっています。したがって、病床使用率は異なった病床数を母数にして算定することになりますが、

第33週（8月16日～22日）93.9%をピークに減少に進み、第40週から1桁台の8.6%となり、第47週0.6%、第48週1.0%。第49週（今週）0.4%となっています。ステージ分類では第39～49週（今週）と11週連続してステージⅢ解消となっています。

- ⑦ 重症入院患者数は第34週（8月23日～29日）68人をピークに減少が進み、第40週～第46週は1桁台となり、第47週～第49週（今週）はゼロとなっています。

重症者の確保病床は第31週の30床から徐々に増床が続き、第44週以降第49週（今週）まで、計69床となっています。したがって、重症病床使用率も入院病床使用率と同様に異なった病床数を母数にして算定することになりますが、第33週（8月16日～22日）の146.7%をピークに減少傾向となり、第36週に2桁台の72.7%となり、第41週には1桁台の6.1%となりました。第47週～第49週（今週）は重症患者数ゼロとなったため、重症病床使用率も3週続けて0.0%となっています。ステージ分類ではステージⅣ（50%以上）が7週連続した後、第37週、第38週がステージⅢ（20%以上）、そして第39～49週（今週）と11週連続してステージⅢ解消となっています。

- ⑧ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数は、第33週（8月16日～22日）4143人をピークとして減少が進み、第38週に478人と3桁台、第41週に73人と2桁台となり、第49週（今週）は8人と1桁台となりました。

- ⑨ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人は、第33週（8月16日～22日）269.0人をピークに減少が進み、第37週74.3人と2桁台、第40週6.9人と1桁台となり、第48週0.8人、第49週（今週）0.5人と、1.0を下回っています。ステージ分類としては、第39～49週（今週）11週連続してステージⅢ解消となっています。

<変異ウイルス検出状況>

今週はデルタ株が30件追加となり、3.11～12.12のデルタ株累計は511件となっています。

南アフリカに端を発したとされている新たな変異株（オミクロン株：o）は、国内においても懸念される変異株（VOC: Variant of Concern）とみなされるようになったため、「変異ウイルス検出状況」に加えしました。11.28までは0件と表示しましたが、今後o株が検出された場合は、神奈川県及び厚生労働省と連携して対応し、発表は神奈川県が行うため、o株に関しては第48週以降バー（-）表示としております。

10月1日に緊急事態宣言地域から解除されて以降も、多くの市民の皆様のご理解ご協力により明確に減少し、新規陽性者数、入院数、重症患者数は、第48週・第49（今週）の新規陽性患者数は8人・7人と1桁となり、今年の最低値となりました。また、第47週～第49週（今週）と3週続けて重症入院患者数はゼロとなっております。

これまでの不安はだいぶ解消されてきていると思いますが、注意が緩みすぎてしまい安心が油断となってしまうと再びウイルスが戻ってくる可能性があります。また新たな変異株（オミクロン株）が増加し国内でも17例検知されています（12月13日現在）、日常生活の中での感染対策はこれまで行ってきたことと共通です。リスクの高い行動には気を付けながら、日常生活がさらに回復し、維持ができるよう、引き続きご協力くださいようお願いいたします。外での飲食やどちらかへお出かけになる機会も増えてくるとは思います。感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯は避け、家族単位などの少人数でゆっくりと過ごされると良いと思います。気温も下がってきましたが、換気は感染予防に重要です。「時々空気を入れ替える」ということもお忘れなくお願いいたします。

これらの対策は冬季に多いインフルエンザやノロウイルスにも共通の予防方法です。